

美術館ニューズ

群馬の森

no. 197
2024 7/1

おいしい 食を彩る植物のものがたり 新しいボタニカル・アート

Royal Botanic Gardens, Kew Botanical Art and the Development of Delicious Food

2024年7月13日[土] - 8月25日[日]

会場：展示室 1

休館日：毎週月曜日（ただし7月15日、8月12日は開館）、7月16日（火）

開館時間：午前9時30分 - 午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般 900 (720)円、大高生 450 (360)円

*（ ）内は 20名以上の団体割引料金

*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

主催：群馬県立近代美術館

後援：ブリティッシュ・カウンシル

協力：日本航空

特別協力：英国キュー王立植物園

企画協力：ブレントラスト

花 や薬草などを科学的に正確に記録したボタニカル・アートは18～19世紀のイギリスで流行します。貿易大国として発展したイギリスは、世界各地で植物を採集して持ち帰り、果物や野菜を栽培することで食文化を豊かに発展させていきました。上流階級の遅いディナーに伴い、夕方4時か5時頃、お茶と一緒にトーストやお菓子をつまむアフタヌーン・ティーの習慣は、1840年頃から始まったと伝えられます。

本展では、20万点を超える世界最大級のボタニカル・アート・コレクションを収蔵する英国キュー王立植物園の協力のもと、細密な版画に美しい手彩色を加えた野菜や果物、茶、ハーブといった食用の植物画を出品するほか、食卓を飾るティーセットやレシピ本等を加えて約200点を紹介します。イギリスとリンゴの深い関係や、コーヒーがイギリスの金融界で果たした役割など、知られざるエピソードもご紹介します。

【関連事業】

◎講演会 申込不要、参加無料

7月27日(土) 午後2時～3時30分

「文学とアートから見るイギリスの食事」

講師：小林晶子氏 (SOMPO美術館上席学芸員)

◎ワークショップ 要申込、各先着20名

※申し込み方法などの詳細はホームページをご覧ください。

①アフタヌーン・ティーを楽しもう

7月24日(水) 午後2時～4時

紅茶とお菓子等の提供：まーやの家

協力：森のレストランころむす

参加費：3500円

対象：小学4年生以上

②美術館で麗子先生とスイートなひととき

8月4日(日) 午後2時～3時30分

講師：山本麗子氏 (菓子・料理研究家、クッキングプロデューサー)

協力：森のレストランころむす

参加費：2000円

対象：小学生以上

◎学芸員による作品解説会 申込不要、要観覧料

8月10日(土)、8月21日(水) 午後2時～3時



01



02



03



04

01 ウィリアム・フッカー《アブリコット(アンズ)「ムア・パーク」》1818年 ステイプル・エングレーヴィング、アクアチント、手彩色/紙

02 インドの画家《スイカ》19世紀前半 水彩/紙

03 イギリスの画家《ローズヒップ》19世紀 水彩/紙

04 ロバート・ヘンネル3世《ティーポット・セット》1861年 銀

01,03,04 個人蔵 Photo Michael Whiteway

02 キュー王立植物園蔵 ©RBG KEW

開館50周年記念
50
群馬県立近代美術館

令和5年度 新収蔵作品紹介

令和5年度、群馬県立近代美術館では、新たに35点の作品を寄贈により収蔵しました。磯部草丘、横堀角次郎、南城一夫といった大正～昭和期に活躍した本県ゆかりの作家の代表作から、現在活躍中の若手作家の最新作まで、幅広い作品がご厚意により寄贈されました。

新収蔵作品は、今年度、下記のコレクション展示において公開予定です。

「日本と西洋の近代美術 I」および「新収蔵作品紹介」 2024年7月13日～8月25日

「磯部草丘と群馬の画家たち」 2025年3月1日～4月6日

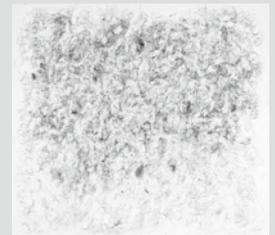
分類	No.	作者名	作品名	制作年	寄贈者名
日本画	1	磯部草丘	築の豊秋村	1928 (昭和3)	萩原順子氏
油彩その他	2	横堀角次郎	代々木風景	1920 頃	秋山光司氏遺贈
	3	横堀角次郎	セーヌの橋	1956	秋山光司氏遺贈
	4	横堀角次郎	東大三郎池	1967	秋山光司氏遺贈
	5	南城一夫	オルガン	1962	秋山光司氏遺贈
	6	南城一夫	ひまわり	1963	秋山光司氏遺贈
	7	村井正誠	二人	1973	秋山光司氏遺贈
	8	長重之	ピックポケット〈閉じ込められないもの〉A	1997-98	笈沼愛子氏・津布久幸子氏
	9	長重之	ピックポケット〈閉じ込められないもの〉B	1997-98	笈沼愛子氏・津布久幸子氏
	10	長重之	ピックポケット〈閉じ込められないもの〉C	1997-98	笈沼愛子氏・津布久幸子氏
	11	長重之	ピックポケット〈閉じ込められないもの〉E	1997-98	笈沼愛子氏・津布久幸子氏
	12	長重之	ピックポケット〈閉じ込められないもの〉F	1997-98	笈沼愛子氏・津布久幸子氏
	13	山田英雄	4° のスペース	1974-75 頃	中嶋恵子氏
	14	山田英雄	4° のスペース	1974-75 頃	中嶋恵子氏
	15	竹村 京	Between Tree, Ghost has come	2011	牧 寛之氏
	16	鬼頭健吾	ex-utopia	2014	牧 寛之氏
	17	鬼頭健吾	ex-utopia	2014	牧 寛之氏
	18	鬼頭健吾	cartwheel galaxy	2023	牧 寛之氏
	19	鈴木ヒラク	Constellation #23	2018	遠藤祐里氏
	20	鈴木ヒラク	Constellation #54	2021	牧 寛之氏
	21	鈴木ヒラク	隕石が書く (S/S) #5	2023	牧 寛之氏
	22	鈴木ヒラク	隕石が書く (S/M) #21	2023	牧 寛之氏
	23	鈴木ヒラク	隕石が書く (S/L) #1	2023	牧 寛之氏
	24	村田峰紀	drawing 10.11.2017	2017	牧 寛之氏
	25	山口 歴	OUT OF BOUNDS No. 155	2023	牧 寛之氏
	26	山崎雅未	City #3	2023	牧 寛之氏
	27	小谷くるみ	対岸	2023	牧 寛之氏
	28	南 依岐	ALAB-CL-FKARKCH-P-F1	2023	牧 寛之氏
	29	長島伊織	Untitled	2023	牧 寛之氏
	30	山田康平	Untitled	2023	牧 寛之氏
版画	31	菅井 汲	Foret (森)	1971	河内世紀一氏
写真	32	大越円香	Surface drawing 20230321-03	2023	牧 寛之氏
彫刻・立体	33	鬼頭健吾	active galaxy	2014-15	牧 寛之氏
工芸	34	田中寿々	青銅うさぎ両耳花瓶	1977	高橋武雄氏
	35	田中寿々	朱銅片手付花瓶	1987	高橋武雄氏



磯部草丘《築の豊秋村》



横堀角次郎《代々木風景》



村田峰紀《drawing 10.11.2017》



鬼頭健吾《active galaxy》

M u s e u m | N e w s

友の会だより

◆ミュージアムショップより

7/13から開催される「開館 50周年記念 英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート」展に合わせて、同展にちなんだ多数のグッズをご用意し、皆様のご来店をお待ちいたしております。

同展公式図録をはじめ、マグネットやブックマーカー、クリアファイルなどのステーションナリーの他、マグカップ、紅茶、ルームミストといった癒しのひと時にピッタリなアイテムを各種取り揃えております。展覧会鑑賞後はミュージアムショップでのお買い物をお楽しみください。



ブックマーカーとマグネット



ルームミスト(左奥)/ナプキン、マグカップ、紅茶(手前の籠の中、時計回りに)

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560 (館代表) / FAX 027-346-4064

[展示室 2・6]

■日本と西洋の近代美術 I 7/13～8/25

当館の収蔵品より、モネやルノワールなどの西洋近代絵画ならびに彫刻、明治から昭和にかけての日本近代洋画をご紹介します。令和5年度新たに収蔵された横堀角次郎、南城一夫、村井正誠の作品を初披露します。また、ピカソの原画による《ゲルニカ(タピスリ)》を展示します。



パブロ・ピカソ(原画)/ジャクリヌ・ド・ラ・ボーム＝デュルバック(織り)
《ゲルニカ(タピスリ)》 1983年(原画:1937年)

[展示室 3]

■新収蔵作品紹介 7/13～8/25

昨年当館で開催した「鈴木ヒラク 今日の発掘」展に出品された5点をはじめ、群馬を拠点に活動する竹村京、鬼頭健吾、村田峰紀の代表的作品、そして今後の活躍が期待される若手作家の最新作まで、令和5年度に収蔵した現代美術作品を紹介します。



竹村京《Between Tree, Ghost has come》 2011年

コレクション展示

[展示室 4・5]

■たてび×きんび ボタニカル特集 7/13～8/25

企画展示「英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート」に合わせ、自然や植物を主題にした作品を多く収蔵する群馬県立館林美術館のコレクションと当館の収蔵作品のコラボレーションにより、19世紀から21世紀までの美術家がとらえた、植物や自然の表現をご覧ください。



山口啓介《花の心臓/被子植物の空気柱》
2003年 群馬県立館林美術館蔵

[展示室 7 (山種記念館)]

■生誕150年 小室翠雲 7/13～8/25

2024年は小室翠雲が生まれて150年という節目の年にあたります。《三枝禮》をはじめ収蔵する作品を一堂に展示し、その画業をご紹介します。



小室翠雲《三枝禮》 1936年

こどもとおとな+夏の美術館

2024年7月20日(土)～8月25日(日)

●ワークショップ【要申込/無料】

「背中で語ろう！」

講師：村田峰紀(パフォーマンス・アーティスト)
日時：7月20日(土) 10:30～12:30 / 14:00～16:00
会場：2F アトリエ、講堂
対象：小学生～一般(小学3年生以下は保護者同伴)

●企画展「おいしいボタニカル・アート」

関連ワークショップ【要申込/要参加費】

「アフタヌーン・ティーを楽しもう」

日時：7月24日(水) 14:00～16:00
会場：展示室1 および森のレストランころむす
参加費：3,500円
対象：小学4年生～一般
紅茶とお菓子等の提供：まーやの家

「美術館で麗子先生とスウィートなひととき」

講師：山本麗子(菓子・料理研究家、クッキングプロデューサー)
日時：8月4日(日) 14:00～15:30
会場：森のレストランころむす
参加費：2,000円
対象：小学生～一般

夏休み期間中、募集制のワークショップや、どなたでも自由に参加いただける創作体験など、多彩なイベントを開催します。申し込みが必要なプログラムがありますので、詳しくはチラシ、ホームページをご確認の上、ぜひご参加ください。

●ミニワークショップ【申込不要/無料】

「くるくるリンゴ」

期日：7/21、28、8/4、11、18、25 *毎週日曜日
時間：各日 10:00～16:00
会場：1F ホール

「ふしぎな植物をかこう」

期日：7/25、8/1、8、15、22 *毎週木曜日
時間：各日 10:00～16:00
会場：2F アトリエ

●鑑賞プログラム【申込不要/要観覧料】

「おはなししよう!《ゲルニカ(タピスリ)》」

期日：7/26、8/23(金曜日)
時間：10:30～14:00(所要時間20分程度)
会場：2F 展示室2

●いつでも参加できるワークシート

【申込不要/要観覧料】

「ミュージアム・クエスト」

会場：2F 展示室



背中で語ろう!
photo: Hayato Wakabayashi



アフタヌーン・ティーを楽しもう



美術館で麗子先生とスウィートなひととき
photo: Masako Nagano



くるくるリンゴ



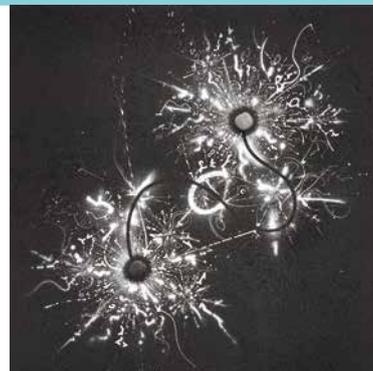
ふしぎな植物をかこう

当館は昨年、現代美術棟の2室を使い「鈴木ヒラク 今日の発掘」展を開催しました。展示室4では近作シリーズ〈Constellation〉と〈Interexcavation〉により、先史時代の壁画が残された洞窟を思わせる空間を創出し、もう一方の展示室5では、〈隕石が書く〉シリーズの新作絵画40点を高さ10m、幅20m超の向かい合う壁面に点在させ、宇宙空間の中で太古から未来へ生まれては消えていくドローイングの線を表現しました。この時の出品作のうち、〈Constellation〉2点と〈隕石が書く〉3点が昨年度末、当館に収蔵されました。

鈴木ヒラクは「描く」と「書く」の間に広がるドローイングの可能性を探求し、絵画、彫刻、映像、パフォーマンス等により未知の線を発掘するように制作活動を続けています。最新シリーズ〈隕石が書く〉(2022年～)では、アクリル絵具と土を混ぜた漆黒の画面に石を取り付け、それに呼応するようにシルバーインクでドローイングを施しています。石の一つ一つには地球誕生以前からの長大な時間が内包され、また形や色、表面にあらわれる線や穴などの表情は千差万別です。人間の意志とは関わらず生成された石の自然の造形を美しい写真とテキストでとらえたロジェ・カイヨワの著書『石が書く』(1970年)からインスピレーションを得て、鈴木は膨大な量の情報を持つ石と会話するように新たな線を生み出し、画面に刻み込んでいきます。当館で発表された新作では、3種類の大きさ(L、M、S)の正方形(Square)の画面に、多孔質の溶岩が1個から多いもので17個配置されています。光を反射するシルバーの線は隕石が宇宙空間で放つ光あるいは移動する軌跡のようであり、また隕石同士が交信する信号のようにも見えます。

鈴木は有名なラスコーをはじめ国内外の洞窟壁画をリサーチし、未知なる過去に絵でも文字でもない線の豊かな可能性を見出すと同時に、宇宙を通して未来に広がる未知の領域にアプローチしようとしています。過去、現在、未来をドローイングによってつなぐ鈴木は、この作品群によって宇宙時代における新しい表現言語を私たちに示したのです。

※この作品は7月13日から8月25日まで、コレクション展示「新収蔵作品介绍」(展示室3)において展示されます。



[上]
鈴木ヒラク(1978-)
《隕石が書く(S/L)#1》2023年
溶岩(ボルト止め)、シルバーインク、土、アクリル・カンヴァス
175.0×175.0×9.0 cm
牧寛之氏寄贈 ※令和5年度新収蔵作品
Photo: Chen Hsin Wei

[下]
「鈴木ヒラク 今日の発掘」(2023年9月16日～12月19日)展示風景
Photo: Ooki Jingu

群馬からみる日本の美 戸方庵井上コレクション5つの扉

2024年9月21日[土] - 11月10日[日]

前期: 9月21日(土) - 10月20日(日)

後期: 10月22日(火) - 11月10日(日)

*会期中、大幅な展示替えを行ないます。

会場: 展示室1

休館日: 毎週月曜日(10/28は県民の日のため開館、祝日の場合は開館し翌日休館)

開館時間: 午前9時30分 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料: 一般1000(800)円、大高生500(400)円

* ()内は20名以上の団体割引料金

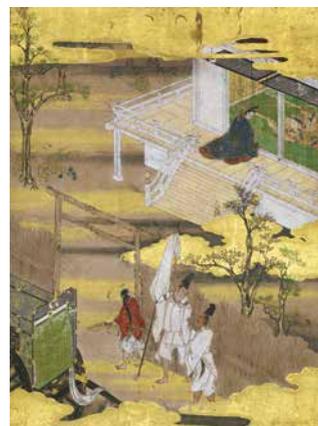
* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料
群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料

主催: 群馬県立近代美術館

主助: 芸術文化振興基金

群馬県の文化振興に広く貢献された高崎市の実業家、井上房一郎(1898-1993)は、美術館での公開を念頭に長年作品を蒐集し、昭和49(1974)年の群馬県立近代美術館開館に際して、国の重要文化財を含む日本・中国の美術作品をまとめて寄贈されました。このコレクションは、井上の号「戸方庵」にちなみ「戸方庵井上コレクション」と名づけられ、現在、所蔵品の重要な柱の一つとなっています。

本展は、南宋から清時代にかけての中国絵画や、日本の室町から桃山時代の水墨画、江戸時代の琳派、狩野派の作品、さらに肉筆浮世絵といった戸方庵井上コレクションの特色ある作品を奥深い日本美術の世界へ誘う扉に見立て、全国各地からお借りした名品の数々とともに5つの章からご紹介いたします。開館50周年を記念した美の競演をおたのしみください。



岩佐又兵衛《源氏物語色紙絵 賢木園》
江戸時代 個人蔵(前期展示予定)

